

多文化的な視点を持つ 次世代アジアのリーダーを養成



公共政策大学院の CAMPUS Asia プログラムとは：

北京 (BEIJING) ・ ソウル (SEOUL) ・ 東京 (TOKYO) の国立三大学を舞台にした
東アジアの公共政策・国際関係分野での英語による最高水準の学位・交換留学プログラムです。

キャンパスアジアコース、2013年4月開講

願書受付： 2012年8月

東京大学公共政策大学院では、CAMPUS Asia プログラムへの参加をやすくするために、英語で行う科目を中心として履修し、PKU と SNU からの単位を持ち帰ることを修了要件の一部にした「キャンパスアジアコース」を2013年4月に開講します。

願書受け付けは2012年8月です。

詳しくは GraSPP のホームページ <http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/index.htm> でご確認ください。

大学の世界展開力強化事業 取組実績 東京大学

【構想の名称】(タイプA- I CAMPUS Asia Pilot Program)

公共政策・国際関係分野におけるBESETOダブル・ディグリー・マスタープログラム

【プログラムの目的・養成する人材像】

東アジアの公共政策・国際関係分野における最高水準の英語による学位プログラムを創成することにより大学の世界競争力を強化し、多文化的な視点を持つ次世代のアジアのリーダーなどの優秀なグローバル人材を育成する。

【構想の概要】

北京大学、ソウル大学校、東京大学三大学(BESETO)の間でコンソーシアムを形成し、公共政策・国際関係分野における大学院レベルでの日中韓交流で英語での教育による交換留学または及びダブル・ディグリー(DD)を導入する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

単位の相互認定、成績管理、学位授与に至るプロセス

①相互で単位あたりの授業時間をもとに換算方法をルール化、②各大学の修了要件を比較、③コアコースの部分については、単位の読み替え先として対応する科目を事前に協議の上一覧にまとめる、④学生の一般的な履修モデルを提示する。

アカデミックカレンダーの違いを利用した集中講義、言語教育とインターンシップ

集中講義形式のサマースクールやそれぞれの言語を学習する機会の提供、インターンシップ先の紹介などを行う。

人材育成ニーズに合った教育内容

課題を適切に認識しリーダーシップを発揮できる政策担当者の養成に不可欠な、国際的視野で異なる文化や社会を複眼的に捉え理解するという力や国際的なコミュニケーションの手段として高度に英語能力を高める教育を行う。

■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況



キャンパスアジアワークショップ
(北京大学)



キャンパスアジアワークショップ(ソウル大学校)



学生交流協定(覚書)の締結

2011年、東京大学、北京大学、ソウル大学校の連名による学生交流の覚書を締結。2012年、キャンパスアジア学生ワークショップを開催し、ソウル大学校、北京大学での学生交流を行った。

キャンパスアジアコースの開設準備: 公共政策大学院

ソウル大、北京大で修得した単位の振替を修了要件に入れた「キャンパスアジアコース」を平成25年4月に開設予定、平成24年に約10名の募集を行う。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

平成24年に派遣を開始し、交換留学を半年ずつ2回行う。平成25年よりダブル・ディグリーもあわせ、延べ71名(実数は約半数)の派遣を行う。

○ 外国人留学生の受入れ

平成24年に受入を開始し、交換留学を半年ずつ2回行う。平成25年よりダブル・ディグリーもあわせ、延べ74名(実数は約半数)の受入を行う。交換留学は2学期間で2カ国、ダブル・ディグリーは3学期間で2カ国の派遣、受入となる。

	H23	H24	H25	H26	H27
日本への受入	0	C5, K3	C10, K10	C11, K11	C12, K12
中国への受入	0	J3, K5	J7, K10	J11, K10	J14, K12
韓国への受入	0	J4, C5	J7, C10	J11, C10	J14, C12

注)H23は実績、H24以降は計画。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

日本人学生の派遣のための環境整備

交換留学・ダブル・ディグリープログラムの担当スタッフが募集時から留学中、帰国後まで一貫して教員や先方大学とも連携をとってサポートする。留学前の学生には、単位の履修、認定の手続き等について説明を行う。また帰国した学生と派遣前の学生との懇談会などを企画し学生同士での情報交換を促す。

外国人学生の受入れのための環境整備

英語で対応可能なスタッフにより、学術面、渡航準備、渡日後のカウンセリング、交換留学やダブル・ディグリーの単位認定に関する相談など、きめ細かなサービスを提供する。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

シラバスの公開、学生アンケートなどの実施、合同委員会の設置

学生の履修方法などについては教職員に相談できるサポート体制を整える。修了要件やシラバスは、印刷物またはホームページなどで公開され、透明性、客観性を維持する。各科目の終了後には学生アンケートを行い、ファカルティ・ディベロップメントに役立てる。三大学の連携による合同の委員会がプロジェクトの運営にあたる。